

日本において M&A 時の「のれん」償却が不要になった場合に想定される影響について

Felo AI

概要

日本において M&A（合併・買収）時に発生する「のれん」の償却を不要とする制度変更が検討されており、これが実現した場合、企業会計、M&A 戦略、さらには知的財産の価値評価とその活用に多岐にわたる影響が想定される[2][10][37]。現行の日本基準では最長 20 年でののれん償却が求められるが、国際財務報告基準（IFRS）や米国会計基準では非償却が主流である[4][6][15]。この制度変更は、会計上の利益インパクトだけでなく、企業の M&A 行動を変化させ、特にスタートアップエコシステムの活性化や海外企業との競争力向上に寄与すると期待されている[11][14]。一方で、減損リスクの一括計上や経営判断への影響といった課題も指摘されており、慎重な検討が求められる[5][11]。知的財産の観点からは、のれんの構成要素としての無形資産、特に特許やブランドの重要性が増し、M&A における知財評価の高度化が一層求められることになる[12][61][73]。

詳細レポート

1. 企業会計上の財務影響

1.1. 利益へのインパクト

のれんの非償却化が実現した場合、最も直接的な影響は企業の損益計算書に現れる。

- 営業利益・経常利益の増加: 従来、販管費として毎期計上されていたのれん償却費がなくなるため、その分だけ営業利益や経常利益が押し上げられる効果がある[3][5][21]。これにより、特に大型 M&A を実行した企業の利益水準が改善する可能性がある[13]。IFRS や米国会計基準を採用する企業との比較において、日本基準採用企業の利益が相対的に低く見えるという問題も解消に向かう[1][48][53]。
- 減損リスクの一極集中: 定期的な償却がなくなる代わりに、買収した事業の収益性が低下した場合など、のれんの価値が毀損したと判断された際には、減損損失として一括で特別損失を計上する必要があるが生じる[5][6][11]。これにより、特定の期に巨額の損失が発生し、決算へのインパクトが集中するリスクがある[14][45]。このため、減損テストの重要性が増す[5]。

1.2. 買収戦略への影響

のれん償却の負担軽減は、企業の M&A 戦略にも大きな変化をもたらすと考えられる。

- M&A の積極化: のれん償却による利益圧迫懸念が薄らぐことで、企業はより積極的に M&A を検討しやすくなる[2][5][8]。特に、純資産額が小さくのれんが高額になりがちなスタートアップ企業の買収において、買収側のハードルが下がると期待される[10][14][23]。
- 買収価格への影響: 償却負担がなくなること、買い手企業がより高い買収価格を提示しやすくなり、結果として買収価格が高騰する可能性も指摘されている[11][42]。これは、特に競争環境の激しい案件において顕著になるかもしれない。
- 海外企業との競争力向上: 日本企業が海外企業と M&A 案件で競合する際、のれん償却の負担がない海外企業の方が有利な条件を提示しやすいという状況があった[11][14]。制度変更により、日本企業も同様の土俵で競争できるようになり、優良案件の獲得機会が増える可能性がある[11][18]。
- ROE（自己資本利益率）への影響: のれん償却費の減少は利益を増加させるため、ROE の改善に繋がる可能性がある[21][41][57]。ただし、のれんが貸借対照表に残り続けることになるため、自己資本に対するのれんの割合が高い場合は、将来的な減損リスクが ROE に与える影響も考慮する必要がある[25][43]。過去の研究では、M&A 後の ROE は初期に低下するものの、数年後には向上する傾向も示されている[9][54]。

1.3. 会計処理の簡素化

のれん償却に関する会計処理が不要になることで、経理業務の負担が軽減されるという側面もある[5]。

2. 制度変更に伴う企業行動への影響



2.1. M&A 市場の活性化

制度変更は、日本国内の M&A 市場全体の活性化に寄与すると期待されている。

- スタートアップエコシステムの促進: スタートアップ企業にとって、M&A は IPO（新規株式公開）に並ぶ重要な出口戦略（イグジット）となる[11][23]。のれん償却負担の軽減は、買い手企業によるスタートアップ買収を後押しし、資金調達や成長のサイクルを加速させる可能性がある[2][10][14]。
- 事業承継の円滑化: 後継者不足に悩む中小企業にとって、M&A が事業承継の現実的な選択肢としてより活用しやすくなる[11]。
- 産業再編と新陳代謝の促進: 企業が成長戦略の一環として M&A を活用しやすくなることで、産業再編や企業の新陳代謝が進む効果が期待される[2][30][57]。

2.2. 経営者の判断への影響

のれんを非償却とする場合、経営者の判断がより重要になる。

- 減損判断の重要性: のれんの減損テストにおける評価や判断は、経営者に委ねられる部分が大きい[11]。楽観的な評価により減損処理が遅れるリスクや、逆に過度に保守的な判断がなされる可能性も考慮する必要がある。
- M&A の質の確保: 償却負担が軽減されることで、慎重な検討を経ずに安易な M&A や高値掴みを行ってしまうリスクも懸念される[11][42]。M&A の成功率や収益性に対するより慎重な検討が求められる。

2.3. 投資家への影響

投資家にとっても、この制度変更は企業評価の視点に変化をもたらす。

- 財務諸表の国際比較の容易化: IFRS 採用企業との財務諸表の比較可能性が向上し、グローバルな投資判断がしやすくなる[13]。
- 減損リスクへの注視: 定期的な償却がなくなる分、投資家は潜在的な減損リスクをより注意深く監視する必要がある[57]。企業による減損テストの適切性や、買収後の事業パフォーマンスに関する情報開示の重要性が高まる。
- 情報開示の強化: 制度変更に伴い、M&A 後のパフォーマンスや減損リスクに関する開示要件が強化されることが予想される[57]。投資家はこれらの情報を活用し、より精緻な企業分析を行うことが可能になる。

3. 知財価値評価・活用との関係

3.1. のれんにおける知的財産の重要性



のれんは、買収価格と被買収企業の純資産評価額との差額であり、ブランド力、技術力、顧客基盤、特許、ノウハウといった目に見えない無形資産の価値を反映している[10][12][34]。

- 無形資産の価値: のれんの中には、特許権や商標権といった法的に保護された知的財産だけでなく、従業員の専門知識や企業文化といった広範な知的資産が含まれる[12][16][64]。これらの無形資産が企業の競争力や収益力の源泉となる[34][63]。
- 企業価値における無形資産の比重: 近年、企業価値に占める無形資産の割合は増加傾向にあり、特に米国企業と比較して日本企業はこの点でまだ向上の余地があると指摘されている[61][73]。

3.2. M&A における知財評価

のれんの償却が不要になると、M&A におけるのれんの初期評価、すなわち無形資産、特に知的財産の評価が一層重要になる。

- 知財デューデリジェンスの高度化: 買収対象企業の持つ特許ポートフォリオ、ブランド価値、技術ノウハウなどを正確に評価する知財デューデリジェンスの重要性が増す[69][73]。これにより、適切な買収価格の算定や、買収後のシナジー効果の最大化を図る。

- 特許価値の評価手法: 特許の価値評価には、コストアプローチ、インカムアプローチ、マーケットアプローチなどの手法が用いられるが、その実施可能性、独占性、市場性などを総合的に評価する必要がある[73]。
- 知財戦略とのれん価値: 効果的な知財戦略は、保有する知的資産の価値を最大化し、結果としてのれんの価値を高めることに繋がる[12][64]。M&A の際には、買い手企業は売り手企業の知財戦略やその成果も評価対象とする。
- 知財リスクの評価: M&A においては、対象企業が第三者の特許を侵害しているリスク（侵害リスク）や、保有特許が無効になるリスク（無効化リスク）なども評価する必要がある[73]。逆に、対象企業の特許が第三者に侵害されている場合は、将来的なライセンス収入や損害賠償獲得の可能性としてプラスに評価されることもある[73]。
- PPA（取得原価の配分）の重要性: M&A 後に行われる PPA において、のれんだけでなく、識別可能な無形資産（特許権、商標権、顧客リストなど）を個別に評価し、公正価値で計上する必要がある[16][71]。のれんが非償却となれば、これらの無形資産の評価と償却がより注目される。

3.3. 制度変更が知財活用に与える影響

のれん償却の負担が軽減されることは、企業が知的財産をより重視した M&A 戦略を展開するインセンティブになり得る。

- 知財重視型 M&A の促進: 革新的な技術や強力なブランドを持つ企業を、のれん償却の会計的負担を過度に懸念することなく買収しやすくなる。これにより、自社の事業ポートフォリオ強化や新規事業創出を目的とした知財獲得型 M&A が増加する可能性がある。
- 買い手による知財評価能力の向上要請: のれん償却がなくなること、M&A 初期の評価の比重が高まるため、買い手企業はより高度な知財評価モデルや専門知識を導入する必要に迫られる[57]。適切なデューデリジェンスとバリュエーションが、M&A の成否を左右する重要な要素となる。
- 売り手における知財価値の可視化: 売り手企業にとっても、自社の保有する知的財産の価値を客観的に示し、M&A 交渉において正当な評価を得ることがより重要になる[61][73]。

まとめ

M&A におけるのれんの償却が不要となる制度変更は、日本企業の財務戦略や M&A 行動に大きな変革をもたらす可能性を秘めている。会計上の利益改善や M&A の活性化といったメリットが期待される一方で、減損リスクの一括計上や安易な M&A への傾倒といった潜在的な課題も存在する[5] [11] [14]。

この変更を企業価値向上に繋げるためには、企業は目先の利益影響だけでなく、M&A 戦略の質を高め、買収後の統合作業（PMI）を適切に行うことが不可欠である。特に、のれんの源泉となる知的財産を含む無形資産の適切な評価と活用戦略が、M&A の成功と持続的な成長を実現する上でますます重要となるだろう[12][57][73]。投資家や市場関係者も、企業の開示情報を基に、より本質的な企業価値評価を行う視点が求められる。今後の制度設計の議論と、それを受けた企業の対応が注目される。

1. [「のれん償却の有利不利」 ～好きなものから食べるか](#)
2. [M&A 「のれん」 償却不要 企業会計、国際水準に - 日本経済新聞](#)
3. [M&A 「のれん」 償却の再検討要請、規制改革会議が答申 慎重 ...](#)
4. [「のれん非償却」 が問う覚悟 メリットのつまみ食い禁物](#)
5. [IFRS におけるのれんとは？日本基準との違いや償却しない理由](#)
6. [【日本株】 のれん非償却の制度変更で注目、のれん比率が高い ...](#)
7. [のれん償却とは？メリットやデメリットなど M&A における ...](#)
8. [「のれん」 償却不要で M&A はどう変わる？スタートアップへの ...](#)
9. [ROE を高める、戦略的 M&A 実務とは？](#)
10. [【衝撃】 政府がついに動いた！M&A 「のれん償却」 廃止で ...](#)
11. [のれん償却見直しで M&A はどう変わる？ 日本企業の競争力 ...](#)
12. [のれんと知的資産・知的財産の関係 | こま - note](#)
13. [のれんは償却すべきか否か | 大和総研](#)
14. [「のれん」 定期償却が不要になればスタートアップの活性化に ...](#)
15. [のれん償却について改めて正面から議論してみる必要がないか](#)
16. [M & A 交渉で買収金額が吊り上がる理由 価値を見誤ると減損](#)
17. [M&A 「のれん」 償却不要 政府の規制改革会議 - 日本経済新聞](#)

18. [5/27\(火\)M&A「のれん」償却不要に 政府が会計基準見直しで ...](#)
19. [のれん償却は成長の足かせ 野間幹晴氏 - 日本経済新聞](#)
20. [M&A「のれん」償却不要 政府の規制改革会議 - NewsPicks](#)
21. [政府検討「のれん償却」がもたらす企業会計へのインパクト](#)
22. [日本 M&A---大幅続伸、のれん償却不要の会計処理に期待感先行](#)
23. [のれん償却が不要に？スタートアップに追い風となる会計制度 ...](#)
24. [M&A における「のれん」とは？会計処理・償却期間の決め方と ...](#)
25. [IFRS 任意適用のその先にあること - NIKKO Research Direct](#)
26. [M&A におけるのれんとは？専門家がわかりやすく解説](#)
27. [M&A におけるのれん償却の重要性とその影響 | MA-STARs](#)
28. [M&A の「のれん」とは？仕組み、償却期間、会計処理、注意点 ...](#)
29. [M&A の前に押さえておきたいのれん償却 | 売り手側も知って ...](#)
30. [M&A「のれん」償却不要 政府の規制改革会議](#)
31. [売手企業の時価純資産との差額。→この差額が「のれん ... - X](#)
32. [日本 M&A---大幅続伸、のれん償却不要の会計処理に期待感先行](#)
33. [M&A におけるのれん償却の重要性とその影響 | MA-STARs](#)
34. [M&A におけるのれんとは？専門家がわかりやすく解説](#)
35. [「のれん」償却不要で M&A はどう変わる？スタートアップへの ...](#)
36. [のれんは償却すべきか否か | 大和総研](#)
37. [M&A「のれん」償却不要 政府の規制改革会議 - 日本経済新聞](#)
38. [M&A と会計。仕訳（会計処理）とのれんの扱い方をわかり ...](#)
39. [IFRS におけるのれんとは？日本基準との違いや償却しない理由](#)
40. [M&A におけるのれんとは？償却・会計処理や減損対策を解説！](#)
41. [政府検討「のれん償却」がもたらす企業会計へのインパクト](#)
42. [のれん償却見直しで M&A はどう変わる？ 日本企業の競争力 ...](#)
43. [IFRS 任意適用のその先にあること - NIKKO Research Direct](#)
44. [のれん償却とは？メリットやデメリットなど M&A における ...](#)
45. [M&A「のれん」償却不要 企業会計、国際水準に - 日本経済新聞](#)
46. [のれん償却は成長の足かせ 野間幹晴氏 - 日本経済新聞](#)
47. [【日本株】のれん非償却の制度変更で注目、のれん比率が高い ...](#)

- 48. [M&A「のれん」償却の再検討要請、規制改革会議が答申 慎重 ...](#)
- 49. [売手企業の時価純資産との差額。→この差額が「のれん ... - X](#)
- 50. [第 14 回 「日本企業をダメにする会計制度（第 2 弾）～のれん～」](#)
- 51. [のれんの償却と減損実務 | PwC Japan グループ](#)
- 52. [のれん償却について改めて正面から議論してみる必要がないか](#)
- 53. [「のれん償却の有利不利」 ～好きなものから食べるか](#)
- 54. [ROE を高める、戦略的 M&A 実務とは？](#)
- 55. [M&A の前に押さえておきたいのれん償却 | 売り手側も知って ...](#)
- 56. [M&A「のれん」償却不要 企業会計、国際水準に 規制改革会議 新興の成長後押し - 日本経済新聞](#)
- 57. [政府検討「のれん償却」がもたらす企業会計へのインパクト | 3 分で読めるスタートアップ会計記事 | 毎日投稿](#)
- 58. [のれん償却について改めて正面から議論してみる必要がないか 2024 年 11 月 01 日 | 大和総研 | 池田 唯一](#)
- 59.
- 60. [M&A におけるのれんとは？ 仕訳・税務処理のポイントを紹介](#)
- 61. [知財交渉のコツ： M&A で自社の特許価値を正當に評価して ...](#)
- 62. [評価サービス | サービス紹介](#)
- 63. [M&A におけるのれんとは？ 専門家がわかりやすく解説](#)
- 64. [のれんと知的資産・知的財産の関係 | こま - note](#)
- 65. [M&A における「のれん」「負ののれん」とは？ 概要と事例を ...](#)
- 66. [M&A で特許の価値をどう見極める？ 知財評価のポイント ...](#)
- 67. [特許で企業価値アップ？ M&A で注目される知財の力 | PatentRevenue](#)
- 68. [M&A におけるのれんとは？ 売手と買手が知っておくべきリスク ...](#)
- 69. [M&A におけるのれんとは？ ～算出方法や税務上の処理について ...](#)
- 70. [M&A における企業価値はどのように決定するのか？](#)
- 71. [PPA とは？ 【M&A での必要性】 のれん\(無形資産\)の会計処理も ...](#)
- 72. [M&A のバリュエーションとは？ 企業価値評価の算定方法や ...](#)
- 73. [知財交渉のコツ： M&A で自社の特許価値を正當に評価してもらうには | PatentRevenue](#)

74. のれんと知的資産・知的財産の関係 | こま